

社会科学習指導案

日 時 平成20年7月4日（金）1校時

学 級 1年4組 男子18人、女子21人 計39人

授業者 宮 田 博 文

1 単元名 第2章 世界のすがたとさまざまな地域 世界の国々と地域区分

2 単元について

(1) 生徒観

中学校生活にも慣れ、落ち着いて学習に取り組んでおり、挙手しての発言も他の学級に比べると積極的に思える。その反面、すぐに理解できる生徒と理解するのに時間がかかる生徒の差が激しいようにも思われる。

グループ学習では自分の考えを発表することはできるが、他者の考えに対して賛成・反対を明確に示したり意見を言ったりする場面になると、自信を持ってない生徒が数多くいる。

四月のオリエンテーションの時に社会科に関する4択式のアンケートを実施した。結果は社会科に関する意欲は高く、ニュースを見るなどの一般社会に対する関心も高い数値となった。歴史分野と地理分野を比較した質問では地理分野の関心が低く、苦手に思っている生徒が多かった。本単元に関係する世界の国名（位置）の知識も他学級と比較しても劣っている結果となった。

本単元はまさに生徒が苦手としている分野であり、指導の工夫が必要であると思われる。既得知識を引き出し、時事への関心が高いことを考慮し授業を展開していきたい。

(2) 教材観

本単元は学習指導要領の地理分野における内容（1）「世界と日本の地域構成」の「ア 世界の地域構成」の（イ）国々の構成と地域区分を取り扱う。

この単元は世界の州名や地域名を取り上げ理解させ、国名に関しても主な国々の名称と位置を地図を用いて身につけさせることが必要で、世界の地域構成を踏まえて大まかに世界地図を描くことができるようにすることを主なねらいとしている。

具体的には、州名については大陸名と比較させ、国名と位置に関しては、国名の由来、国境について、国の大小などを切り口として既得知識を生かし拡充を図り、世界地図のかたちで大まかに描けるようになるように進めていくことである。

(3) 指導観

本単元も実生活では体験できない部分が多く、指導に工夫が必要と思われる。ニュースなどの社会に対する関心が高いことや既得知識を生かしながら、興味・関心を引き出し苦手意識の高い本単元の部分を克服していきたい。

また、グループ学習などを通じて、さまざまな角度からものごとを考える力を養いながら、基礎基本の知識や、社会的思考を高めていきたい。

3 自分の思いや考えをみつめさせ、自分を変えさせていく学び方の構築

(1) 「自分をみつめさせる」場のあり方

単元では、今までの生活経験や学習経験で身につけている既得知識を大事にしなが
ら予想させ、予想の裏付けを文脈で表現させたい。調べる段階ではグループ学習を取
り入れていき、「学びあい」をさせる中で自分の予想の確認、修正を繰り返す中で、
画一的な自分の考え方から多角的に考えられる自分の変化を感じさせていきたい。

(2) 「自分をみつめる」評価のあり方

単元学習時間の自分の変化を学習プリントに記入させていく。記入させる場面は予
想の段階、「グループ学習」を通して他者の考えを聞いたりする中で確認・修正して
いく段階、最後に学習を振り返り客観的に自己評価をさせる段階とし、記述したこ
とを評価する。

4 単元の評価規準と指導の重点

社会的事象への関 心・意欲・態度	社会的な思考・判 断	資料活用の技能・表 現	社会的事象について の知識
<p>・国名知識の身に つけ方を自分なり に、そして仲間と 工夫し意欲的に取 り組んでいる。</p> <p>・世界全図の略地 図を自分なりに、 そして仲間と工夫 して描く活動に意 欲的に取り組んで いる。</p>	<p>・国として成り立 つ条件や国境の意 味を、現代の世界 の実態をふまえて 考えている。</p> <p>・世界全図の略地 図の描き方や国名 知識の身につけ方 を自分なりに考 え、工夫している。</p>	<p>・おもな国々の名称 と位置がわかる程 度の世界の略地図 を描くことができ る。</p> <p>・世界の地域区分 や国名知識につ いて追求し、地球 儀や世界地図を 適切に活用して いる。</p>	<p>・おもな国々の名 称と位置、世界の 地域区分を理解し 、その知識を地図 上で身につけてい る。</p> <p>・世界の国々の共 通性や多様性をさ まざまな活動を通 して理解し、自分 なりに略地図上に 書き込むことが できる。</p>

5 指導計画

第2章	世界のすがたとさまざまな地域	8時間	
1	世界の国々と地域区分	2時間	2 / 2 (本時)
2	世界の国々を知ろう	5時間	
	(1) 国名の由来を知ろう		
	(2) 大きい国と小さい国		
	(3) 国境のきまり方		
	(4) 日本から近い国遠い国		
	(5) 海洋国、内陸国		
3	世界の略地図をえがいてみよう	1時間	

6 本時について

(1) 目標

- ① 北京オリンピックや過去のオリンピック開催地から国の三つの条件を意識させながら国名（都市）を確認させ、地図で位置と何州に属するかを理解させる。
- ② グループでの学び合い学習を通して、いろいろな考え方を知り、自己をみつめ、今後の地理学習を進める上での見通しを持たせる。

(2) 指導の構想

本時は単元「世界のすがたとさまざまな地域」の導入段階としてに捉える。

生徒の実態から地理に苦手意識を持つ生徒は、基礎的知識（この単元では国名やその位置）が不足していて自信が持てないからだと思われる。そこで、あらゆる角度から興味関心を引き出す手段の一つとして、本時では時事の話題性の高いオリンピックを取り上げ、授業を展開していく。

授業では中国で開かれる北京オリンピックから過去の開催地を取り上げ、国名、位置何州に属するかを地図上で確認させ、知識を身につけさせたい。また、開催地になる条件を考えさせていく中で、自分の既得知識から予想させ、グループ学習での交流を通して多角的に捉え、社会的な思考を高めていきたい。最後に2016年の開催地を取り上げることで、今後の地理学習の意欲付けを図りたい。

(3) 具体の評価規準

観 点	おおむね満足できると判断できる状況（B）	十分満足できると判断できるキーワード（A）	努力を要する生徒への支援の手だでの例	評価の方法
関心・意欲・態度	自分の考えを、学び合い学習の時に発表できる	積極的な発言		発言の様子
社会的な思考・判断	根拠をもって予想できる	緯度， 気候 経済発展，	個人指導	学習プリントの記述 班での発表
資料活用の技能・表現	地図帳から国や都市を探することができる。 資料を正確に読み取る。		個人指導 グループ指導	学習プリントの記述
知識・理解	国名とその位置がおおむね理解できる	州と国の関係	個人指導 机間巡視	発言の様子

(4) 展開

学習過程	学習内容と学習活動	教師の指導・支援	留意点・資料・備考
<p>1 課題作り</p> <p>2 課題</p> <p>7分</p>	<p>1 (1)六州を確認する。 (2)過去のオリンピック開催地ポスターから関心を持つ。 (3)五輪のマークから意味を考える</p> <p>課題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">中国はなぜオリンピック開催国に選ばれたのだろうか。</div>	<p>1 (1)世界地図で確認する。 (2)開催地ポスターを提示する。 (3)五大陸であることと平和の祭典にもふれる。</p>	<p>オリンピックポスター</p>
<p>3 自分を見つめる</p> <p>4 交流する</p> <p>5 考えを再構築する</p> <p>6 課題を追求する</p> <p>33分</p>	<p>3 課題の予想する。</p> <p>4 それぞれ自分の考えた予想を発表する。 ・国である ・順番 ・経済的発展 ・気候、人口が多い</p> <p>5 交流したことを基に自分の考えを学習プリントに書く。</p> <p>6 予想したことを確かめる。 (1)過去の開催地を地図で位置を確認し、国名と州名を学習プリントに書く。 (2)中国の発展について資料から読み取る。 (3)開催地から大まかに気候を推測する。</p>	<p>3 (1)既習知識から予想させる。 (2)予想できないこともあることに気づかせる。</p> <p>4 班体制を作り発表させる。 (1)多面的な要素があることに気づかせる。 (2)他の考え方が妥当性があるか考える。</p> <p>5 考えが広まったり、疑問に感じたことを書く。</p> <p>6 班体制のまま調べさせる。 (1)都市名から国名を覚え、位置と何州に属するかを確認する。 (2)経済発展がわかる資料を調べさせる。 (3)緯度を考え日本と比較する。</p>	<p>学習プリント</p> <p>学習プリント</p> <p>過去の開催一覧 世界の白地図</p>
<p>7 まとめ・ふりかえる</p> <p>10分</p>	<p>7 学習をふりかえる。 (1)2016年の開催地に立候補の四都市(国)を地図で確認し予想する。 (2)本時をふりかえり学習プリントに書く</p>	<p>7 会長の発言を提示する。 (1)本時の学習から根拠をもち予想する。 (2)本時をふりかえさせながら、自己をみつめさせる。</p>	<p>開催地のPR点の資料</p>